

業況の改善が垣間見えた日銀短観

ポイント① 非製造業の業況が2期ぶりに改善

7月1日に発表された6月調査の日銀短観（日本銀行全国企業短期経済観測調査）によれば、大企業製造業の業況判断DI（デフュージョン・インデックス、「良い」割合-「悪い」割合）は、前回3月調査を5ポイント下回り、2期連続の悪化。対して、大企業非製造業の業況判断DIは、新型コロナの感染リスクの低下や、それに伴うまん延防止等重点措置の解除を背景に、対個人サービス、宿泊・飲食サービスなどの業種で大幅な改善が見られ、前回同調査を4ポイント上回る結果となりました。

ポイント② 製造業は今後の業況改善に期待

製造業の業況悪化の背景には、世界的な原材料価格の高騰に加え、中国向け輸出の減少、また中国からの部材調達に制約が強まったことなどがあるようです。ただ、大企業製造業の仕入価格判断DIは、前回調査より7ポイントの上昇と、記録的な円安が進む中で、同销售价格判断DIの10ポイントの上昇を下回り、原材料高を販売価格に転嫁する動きが進展している模様です。価格転嫁の動きは、中堅・中小企業製造業の業況感が横ばいないし小幅な悪化に留まっていることから伺えます。加えて、足元の中国向け輸出の急回復や、円安で輸出業の売上高が増加する期待も鑑みると、製造業の業況感は徐々に改善していく余地があると見ています。

ポイント③ 設備投資計画は大幅上方修正

2022年度の設備投資計画は、全規模・全産業で前年度比+14.1%となり、前回調査の同+0.8%から大幅に上方修正されました。コロナ禍で先送りされた、脱炭素やデジタル化などに向けた投資が本格的に再開される見通しです。

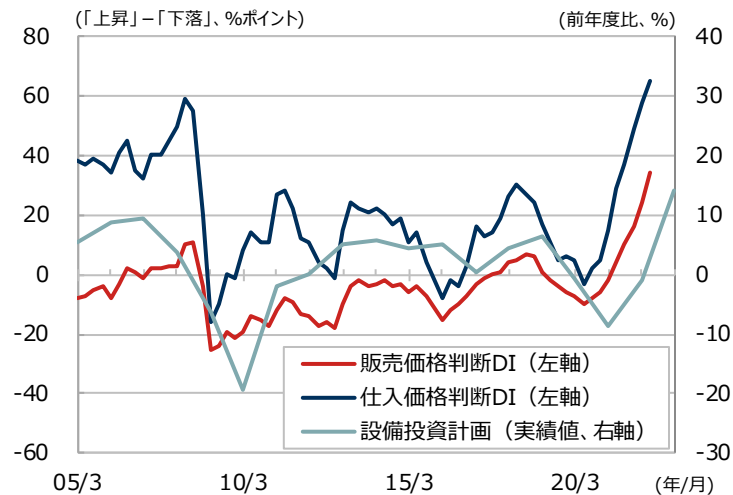
業況判断DI

		業況判断DI				
		（「良い」-「悪い」、%ポイント）				
		2022年 3月調査	2022年6月調査			
			最近	先行き		
			変化幅	変化幅		
大企業	製造業	14	9	-5	10	1
	非製造業	9	13	4	13	0
	全産業	11	11	0	11	0
中堅企業	製造業	3	0	-3	-3	-3
	非製造業	0	6	6	1	-5
	全産業	2	3	1	0	-3
中小企業	製造業	-4	-4	0	-5	-1
	非製造業	-6	-1	5	-5	-4
	全産業	-6	-2	4	-5	-3
全規模	製造業	2	1	-1	-1	-2
	非製造業	-2	4	6	0	-4
	全産業	0	2	2	-1	-3

（注） 金融機関を除く。「最近」の変化幅は2022年3月調査との比較。「先行き」の変化幅は「最近」の比較。

（出所） 日銀「短観」（2022年6月調査）より野村アセットマネジメント作成
(<https://www.boj.or.jp/statistics/tk/yoshi/tk2206.htm/>)

販売・仕入価格判断DI（大企業製造業）と設備投資計画（全規模・全産業）の推移



（期間） 2005年3月調査～2022年6月調査、四半期（設備投資計画は2004年度～2022年度、年次）

（注1） 設備投資計画の2022年度の数値は実績見込値。

（注2） 設備投資計画は金融機関を除く。また、土地投資額を含み、ソフトウェア投資額、研究開発投資額は含まない。

（出所） Bloomberg、日本銀行のデータより野村アセットマネジメント作成

重要 イベント	7月8日	日本経常収支（5月）
	7月21日	日銀金融政策発表、経済・物価情勢の展望（展望レポート）公表